

平成28年度

# 病害虫発生予察特殊報(第4号)

平成29年 1月16日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：ヨツモンカメノコハムシ

*Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg)

発生作物：サツマイモ

## 1 発生経過

- 平成28年10月5日、神奈川県東部のノアサガオ群落で、ヨツモンカメノコハムシを確認したとの情報を受け、同日、病害虫防除部職員が現地調査を実施したところ、本種と疑われるハムシ類を、ノアサガオ群落で成虫1頭、幼虫3頭を採取した。また、周辺のサツマイモ圃場で成虫3頭を採取した。
- 採取した成虫4頭および幼虫1頭について、横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、すべて本種と同定された。
- 本種の神奈川県内での発生確認は初めてである。なお、本種は、平成11年に長崎県、平成14年に鹿児島県で確認されて以降、平成20年宮崎県、平成21年静岡県、平成24年東京都（大島、三宅島）、平成27年愛媛県、平成28年山口県、大分県、高知県において病害虫発生予察特殊報が発出されている。

## 2 形態および生態

### (1) 形態

成虫は扁平な円形で、体長7.5~9mm。前胸背板に1対の黒紋、体の中央部は赤褐色から黄褐色、周縁部は半透明の黄褐色~薄褐色で、左右の上鞘側縁の基部と後方に黒褐色の帯、小楯板後方の隆起部に鮮明な黒斑紋がある（図1）。

幼虫は扁平な紡錘形で、周囲体側にトゲ（樹枝）状突起を有し、脱皮殻や糞を尾端につけて、背面に背負う。

### (2) 生態

成虫出現期は、4~11月。ノアサガオが冬でも葉を付けている地点は繁殖および越冬場所になっていると考えられる。

### (3) 分布

本種は、日本では沖縄本島以南の南西諸島、世界では中国南部、台湾、インドシナ、ミャンマー、インド等、熱帯~亜熱帯に分布している。本州、四国、九州には近年侵入して、分布域を拡大している。

### 3 被害および寄主植物

(1) ヒルガオ科の中でもノアサガオとサツマイモを同程度に好み、アサガオとヒルガオはあまり好まないことが示唆されている。サツマイモで円形～楕円形の大小の食痕を点々と生じる（図2）。長崎県では第1世代幼虫は8月頃蛹化するものと推定され、多発圃場では、10月以降食害が急速に進むことがある。サツマイモのイモは食害しない。

(2) 寄主植物

本種はサツマイモ、ノアサガオ等のヒルガオ科植物を寄主植物とする。

### 4 防除対策

(1) サツマイモにおける本種の発生生態は不明点が多いが、生育初期の被害は生育に影響する可能性があるため、発生に注意する。

(2) サツマイモ圃場周辺のノアサガオを除去する。

(3) 発生が多い場合には、登録情報を確認して薬剤防除を行う。



(図1) ヨツモンカメノコハマシ (成虫)



(図2) サツマイモ葉上のヨツモンカメノコハマシと食害痕

(参考文献)

1. ヨツモンカメノコハムシの長崎県への侵入とサツマイモへの加害 (2003) 福吉賢三  
ほか 九州病虫研究会報 第49巻 P133~P134
2. 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター (2008) 平成20年度病虫害発生予察特殊報第1号. ヨツモンカメノコハムシ
3. 静岡県病虫害防除所 (2009) 平成21年度病虫害発生予察特殊報第2号. ヨツモンカメノコハムシ
4. 東京都病虫害防除所 (2012) 平成24年度病虫害発生予察特殊報第1号. ヨツモンカメノコハムシ
5. 愛媛県病虫害防除所 (2015) 平成27年度病虫害発生予察特殊報第1号. ヨツモンカメノコハムシ
6. 山口県病虫害防除所 (2016) 平成28年度病虫害発生予察特殊報第1号. ヨツモンカメノコハムシ
7. 大分県農林水産研究指導センター (2016) 平成28年度病虫害発生予察特殊報第1号. ヨツモンカメノコハムシ
8. 高知県病虫害防除所 (2016) 平成28年度病虫害発生予察特殊報第2号. ヨツモンカメノコハムシ
9. ハムシハンドブック (2014) 尾園 暁 著 文一総合出版
10. 四国に分布拡大したヨツモンカメノコハムシ (2016) 越智あずさ・吉富博之 SAYABANE No. 21 P53~P54

神奈川県農業技術センター 病虫害防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411  
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>